

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホーム おだやか		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字大留153番地の8		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	平成24年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171600281-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道をはさんだ向かい側には協力医療機関である上ノ国町立診療所があり、700m弱程のところ消防署がある上ノ国町内の住宅地に位置している。国道沿いではあるが、自動車の音などはほとんど気にならない場所であり、ご近所の方々との自然な交流を持つ事が出来ている。上ノ国町は、日本海に面した漁業と農業の盛んな地域で、新鮮で豊富な食材を生かした食事を提供している。漬物など入居者様の馴染みの食べ物で店頭に並ぶものとの違いが大きなものに関しては、自分たちで作って味を再現するなど、食及び食文化の継承に関して特に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームおだやか」のある上ノ国町は北海道の南西、函館市の西に位置する日本海に面した農漁業の町である。隣接する松前町ならびに江差町はそれぞれ松前藩や江差追分で知られており、北海道・中世の史跡、文化財を共に数多く有する町でもある。当事業所は平成16年に1ユニットで開設し、その後2ユニット目を増設し現在に至る。国道228号に面しているが1段低いところにあるため騒音などの影響は無く、近所は住宅や畑があり、国道を挟んだ向かい側には協力医療機関である上ノ国町立診療所がある。上ノ国町および近在の町では小さなイベントが多数あり、利用者と共に地域の方々と交流し、地域密着型のサービスを実践している。平成18年より地域密着型サービスに類型化されたグループホームは「運営推進会議」の開催を義務付けられたが、その会議で最も大切なことは、グループホームと地域とが「つながる」ことであり、地域の「場(トボス)」になっていくことである。こうした関係性を糧にしながら基本理念(寝たきりに「しない、させない、ならせない」)を大切にしながらまい進していくことを期待する。職員の対応も穏やかで共に協働して利用者のためにと取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(おだやか アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が事業所の有する専門性を活かし、地域の方々との交流を活かし、独自の理念を作り上げている。	基本理念(寝たきりに「しない、させない、ならせない」)を掲げている。理念は職員が使用するタイムレコーダーの前に掲示して、出勤・退勤時に意識されるように工夫して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントを利用者様に促し、多くの地域イベント等に参加できるよう連携し参加している。また、事業所主催の行事の際は地域の方に参加を促している。	上ノ国町および近隣の町では小さなイベントが多数あり、利用者と共に地域の方々と接しており、事業所内外では納涼祭や盆踊りなどへの参加や民謡の会などのボランティアを受け入れるなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では研修などを職員に促し、認知症の人への理解や支援の方法を振り返り、より良いケアに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、ご家族や地域の方との意見を基にサービスの向上に努めている。	2か月に1回定期的に開催している。議事録は全利用者の家庭に送付している。	議題が固定化しているので、様々なテーマを設けていただきたい(参考資料:日本認知症グループホーム協会「認知症グループホームにおける運営推進会議ガイドブック」)。会議録は公表されるものなので、個人情報保護にも十分注意する事を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や医療機関等へ事業所の情報やケアサービスの取り組みを伝え、協力して頂ける様取り組んでいる。	町・保健福祉課や包括支援センターとも連絡を取りながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間の防犯目的以外にはしていない。また、全体会議の場などで自施設において身体拘束をしない事意思統一を図るなどしている。	身体拘束・虐待防止の外部研修や内部研修にも取り組み、マニュアルを作成し職員全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所に送られてくる研修案内研修案内などで学ぶ機会を持ち、虐待の見過ごしが無いよう注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会はないが、個々の必要性を関係者と話し合い、各役割を果たせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族等の納得が得られるよう話し合い、また、ご家族側からの要望に応じて行けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族等の意見を尊重し、それに対し管理者や職員で話し合う機会を設け、それらを運営に反映させている。	原則として利用料は事業所に持参してもらい、この機会をとらえて家族からお話を聞いている。運営推進会議にも家族の参加を促しており、意見を聞く機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いを持ち、職員の意見や提案を反映させており、毎月全体会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者とユニット責任者2名とは常に連絡を取り合っている。ユニット会議や全体会議を通して職員の意見や提案を聞く機会を設けている。母体である四海堂整骨院の院長は施設長でもあり、毎日利用者の様子を診ながら職員と接している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員1人1人のケアの実際と力量だけではなく研修を受ける機会を確保し、様々な行動に力を発揮できるよう進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員1人1人のケアの実際と力量だけではなく研修を受ける機会を確保し、様々な分野に力を発揮できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は研修など、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りにてサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご本人からお話を伺い、困っている事や不安な事、要望等に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご家族等が困っている事や不安、要望に耳を傾けご本人とも話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が間に入り、話を聞き、求めている事に耳を傾け様々なサービスを展開できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を心がけ、その中で各利用者同士が暮らしやすい生活を送れるよう日々努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を大切にし、今後のケアの方向性を一緒に話し合い、支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に面会に来られる方との関係等を大切にし、関係が崩れないよう支援に努めている。	馴染みの美容院に行ったり、行けない方には出張サービスがある。事業所周りの樹木の剪定などでは近所の方が協力している。町内外の小さなイベントに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合えるよう、日々の暮らしの中にレクリエーションやリハビリ等を取り入れ関わり合う時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご家族と連絡を取る等、必要時の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に「どんな暮らしがしたいか」「ここへ来てどう思ったか」伺いながらケアできるよう努めている。困難な場合はご家族と話し合い、本人本位に出来る様にしている。	基本は本人本位としている。毎日の着衣などでは本人の選択を優先し、自分で着れない方には手助けしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当者が把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者がケアプランを理解し様々なことに目を向け現状を把握できるよう努めている。。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議の時に各担当者が意見を出し、それに対してケアマネージャーや職員同士の意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	職員は担当制でモニタリングし、ケアマネージャーが一括してケアプランを立て、ユニット会議を通し更に全体会議にかけて職員の意見を聞き、介護計画を決定している。計画の内容については利用者・家族に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については気づきや工夫の記入がまだまだ未熟ではありますが、職員間で情報を共有できるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズを尊重し、その場のその時の状況に合わせたサービスを随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の踊りサークルの訪問など、ボランティア活動が活発であり、ご利用者は馴染みの曲や踊りを楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切に、納得が得られるよう支援に努めている。	かかりつけ医への受診送迎は基本的に事業所が対応している。内科は上ノ国町立診療所、外科や精神科は道立江差病院などで受診し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当事業所には看護職員が不在だが、医療関係と連携を図り適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、その方の情報を伝え、その後も面会や医療関係者との面談を密に行い、早期に退院出来るよう、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にご利用者やご家族の重度化や終末期のあり方について意向を聞く機会を設けており、事業所で出来る事も十分説明している。	重度化や終末期に向けた方針については入所時に説明している。過去に一度だけ看取りの実績もある。現在看護師が常駐していないこともあり、積極的な看取り対応はできないが、家族とも相談しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは常に職員が手に出来る所に保管されており、急変や事故発生時は速やかに行動できるよう、対応を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害時の防犯訓練は年に2回消防署の方を交えて行っており、避難経路や消火器等の機材の使い方も把握している。また、近隣の住民の方にも日頃から協力をお願いしている。	近隣の住民の方との協力を得ながら、年2回の火災・災害時の訓練を行っている。事業所内にはスプリンクラーが設置されており、各部屋の前には火災場所を示す警告灯も装備している。	3.11東日本大震災以降、災害(大地震・津波)対策の充実が叫ばれているので、事業所内の備蓄及び避難先・避難経路・災害用伝言ダイヤル等について、災害(大地震・津波)対策の取り組みを望む。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴や羞恥心を大切にし、その方、その時の状況に合わせた言葉かけや対応を行っている。	新人研修や日常の実践を通して言葉遣いなどの対応に気をつけている。管理者やユニット責任者は常に職員の言動を見守り、利用者への対応について指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、思いを引出せる様な言葉かけを行っており、意思を尊重できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の気分や体調を確認し、無理強いすることなくその方の意思やペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧は好きな方もおり、外出する際はおしゃれが出来るよう、その方のご意見を取り入れている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、その日に食べたい物を利用者様から聞き出し、楽しみを持って食べて頂ける様努めている。また、出来る準備は行って頂いている。	地元の食材を基本としている。調理を得意とする職員もいて、おいしい食事作りを心がけている。誕生会には家族も呼び、食事を楽しむ支援をしている。できる利用者には食事前後の手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量は1日トータルを計算し、利用者に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、その際も出来る事はご本人に行っている。また、口腔内も随時確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て、その人の排泄パターンを把握し、職員が声掛けを行うよう努めており、自室にて放尿されていた方が現在ではトイレに向かう事が出来ています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、自力でトイレに行けない利用者には職員が声かけをして誘導している。できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は理解しており、なるべく水分を摂れる工夫や、日々、体操等出来る事は行って頂き、活動時に過ごせるよう、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診等の兼ね合いもあり、曜日や時間帯を決めている現状。今のところ不満の声や拒否などはないが、今後はその様な支援を取り組めるよう努めていきたい。	週2回を基本としている。ユニット別に月・木と火・金の午後に入浴時間を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や睡眠パターンを把握しており、その方に合わせた休息方法や眠りへの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当者が利用者の処方箋を見て理解し、支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の得意な事、好きな事を理解しており、気分転換を図れるよう努めている。また、ご近所からいただく野菜の下ごしらえは楽しみごとの一つとなっている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の自宅へ一緒に行くなど、希望があった場合には出来るだけ出かけられるような支援に努めている。特に、雪が降る前には積極的に外出を促している。	事業所の周りには住宅と畑があり、散歩コースにもなっている。町内外の小さなイベントに利用者とかける機会を設けたり、町の行事に参加したりして外出の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じ、管理できる方は小額ではあるが自己管理をしている。また、預かっているお金もご本人の希望に沿い、買い物に使うことができています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は今現在いらっしゃらないが、電話は希望時に自由に使い、ご家族と会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、利用者が過ごし易いよう、環境には十分配慮しており、クリスマスやお雛様などその時期の飾り物を取り入れるなど、季節感も味わえるように行事と関連性を持たせながら飾り付けをするなど工夫している。	居間には手作りの作品がきれいに飾られている。不快な臭いなどはなく、落ち着いた雰囲気である。季節感のある飾りもあり居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に独りになれるスペースはないが、食卓テーブルは2か所に分かれており、気の合う同士と一緒に過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定時にご本人やご家族に今まで使用していた使い慣れた物や、ご本人が大事にしている物を持参されるよう、お願いをしている。	本人の馴染みのものを用意して配置している。居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所には手すりを設置し、椅子を置くなどご本人が安全に使用でき、かつ、自立した生活を送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホーム おだやか		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字大留153番地の8		
自己評価作成日	平成24年3月7日	評価結果市町村受理日	平成24年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171600281-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「おだやか ユニット」に同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(おだやかにアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念の確認を行い、実践につなげるための努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加や、歌や踊りなどのボランティアも積極的に受け入れて地域交流を盛んに行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が地域でも生き生きと生活できるよう、理解の促進に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、その内容を参考にして職員会議で話し合いながら取り組みを検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取り合い連携を深めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間の防犯目的以外にはしていない。また、全体会議の場などで自施設において身体拘束をしない事意思統一を図るなどしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会への参加の他、虐待にあたる行為の確認を日常的に行い、虐待防止に努めている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員の数人は日常生活支援事業や、成年後見制度を理解しており、必要時は活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、分かり易い言葉で不安や疑問を持たれないよう、十分な説明を心がけ、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱(意見箱)を玄関に設けており、国保連合会の苦情受付のポスターも掲示している。意見が出た際には、会議の中で協議し、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回、全体会議の場を設け、職員の意見などを反映できるような体制を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の実績や勤務状況を把握しており、やりがいを持てるよう、研修会への参加の促進や、様々な活動に力を発揮できるよう進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務調整を行い参加を促している。その後、内部研修を行い全職員で情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者・一部の職員は交流の機会が多いが、職員全体としては多いとは言えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・ご本人の他にも相談の段階から多く関わりを持ち、情報収集し、ニーズを把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安にならないよう情報共有に努め、来訪時には積極的に声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を開始する際は、ご本人とご家族の今抱えている問題を確認し、ニーズを引き出している。その際、ご本人がどのようなサービスを必要としているか総合的に判断しており、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心情や思いを言動から理解できるよう努めている。なるべく家庭に近い雰囲気でも過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化等は報告し、協力してくれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事やイベントには参加できるよう支援し、関係継続のための努力を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一緒に過ごす時間と、個人で過ごす時間を作り、関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族と連絡を取り、経過の確認や必要時の相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声掛けを大切にし、コミュニケーションをとり把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにより把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の身体状況・身体機能を把握して、ケアを行う様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を含めたカンファレンスを行い、ケアの意向を介護計画へ反映させているが、ご家族からは「お任せします」というご意見が多い。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の言動・変化等は生活記録へ記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況や要望に応じて支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各関係機関に協力を要請して支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時には早めの受診、ご家族への報告を行っている。また、ご家族の意向により他医療機関への受診もすすめている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との関わりはほとんどない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ行き、看護師へ状態の確認を行っている。また、退院が決定した場合には、医師へ今後の対応について説明を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に利用者や家族の重度化や終末期のあり方について意向を聞く機会を設けており、事業所で出来る事も十分説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網と入居者様の緊急連絡先を掲示している他、救急マニュアルを目の届く場所へ置いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシーを損なわない対応を徹底するよう心がけ、努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動に耳を傾け、個々の思いや希望を把握し、一緒にできるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースを大切にしながら柔軟な対応が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族の意向に沿い、訪問美容室への依頼、外出などの支援を行っている。お化粧の習慣がある方には外出時に働きかけている。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや機能に応じて食事提供をしている。茶碗拭き・テーブル拭きは自発的に参加されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日記録し、1人1人の栄養状態の確認をしており、状態に応じて調理法を変えるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、声掛けするとともにトイレで排泄出来る様に支援してきたことでオムツで排泄されていた方がトイレでの排泄が可能となった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために食事の工夫・水分補給・運動・マッサージに努めている。。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。体調不良が見られた時には清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日生活パターンに合わせて睡眠できるようにし、寝付けない入居者様に対しては、飲み物の提供等し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や、副作用などが理解できるよう処方箋をファイルしており、変更があった場合、医療状況・申し送りノートに記載し職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や力を考慮し、日常生活の中で役割を見つける支援を行っている。家事への参加や家庭菜園や花壇の手入れ等を行っており、収穫したものは事業所内で楽しんでいる。		

グループホーム おだやか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(おだやかに)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は外出の機会は減るが、希望に沿って買い物や散歩へ行けるよう支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理する能力がある方には出来る限りの支援を行っているが、ご家族も施設での管理を望まれる方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話の設置はありませんが、ご希望に応じて利用できる説明や声掛けを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った共同空間を取り入れ、光や音に配慮し不快を与えないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にもそれぞれの好みの座布団等を置かれ、新聞を読んだり、テレビを見たりして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や布団を持参していただき、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレ前に張り紙をすることでそれを頼りに居室やトイレに向かえる様工夫している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム おだやか

作成日：平成 24年 11月 13日

市町村受理日：平成 24年 11月 14日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○災害対策 ・事業所内の備蓄及び避難先・避難訓練・災害伝言ダイヤル等について災害(大地震・津波)対策の取り組みを要する。	・事業所内の備蓄の充実、及び、災害時のマニュアルの見直しをし、災害に備える。	・水、及び、食料品の備蓄を見直し確保した。 ・防災マニュアルの見直しをする。	1ヶ月
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み ・議題が固定化しているので、様々なテーマを設ける事が議題であり、個人情報については報告内容を工夫し取り扱いを慎重に行う。	・議題が固定化されないようテーマを設ける。	・運営推進会議ガイドブック、及び、他事業所の取り組みを参考にテーマを決める。	4ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。